

【経済成長の光と影】

Ethical Fashion

～ファストファッションが引き起こす環境問題～

【実践者】

氏 名	清水 紀恵	学校名	群馬県立尾瀬高等学校
担当教科等	英語	対象学年（人数）	2,3年コース別合同（14名）
実践年月日もしくは期間（時数）	2024年7,9月（8時間）		

実施概要

01 実践する教科・領域

英語

02 単元名と単元目標

単元名：Ethical Fashion ～ファストファッションが引き起こす環境問題～

単元目標：ファストファッションの背後にある問題点やエシカルファッションについて考える。

関連する学習指導要領上の目標：社会的な話題について、情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりする力を養成する。

03 単元の評価規準

① 知識・技能	ファストファッションの背後にある問題点やエシカルファッションについて、多様な語句や文を用いて、情報や自分の考えなどを詳しく話したり書いたりして伝える技能を身に付けている。
② 思考・判断・表現	ファストファッションの背後にある問題やエシカルファッションについて、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、情報や自分の考えなどを詳しく話したり書いたりして伝えている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	ファストファッションの背後にある問題やエシカルファッションについて、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、情報や自分の考えなどを詳しく話したり書いたりして伝えようとしている。

04 単元設定の理由・単元の意義

本校は、群馬県北部の山間に位置する全校120名に満たない小さな学校である。全国でもめずらしい自然環境科には生物や植物、山や川といった自然を愛する生徒が全国から集まっており、普通科には尾瀬国立公園をはじめとする大自然の中で育った地元の子どもの多い。普通科の生徒の中には、「ここは山しかなくてつまらない」「虫なんて好きじゃない」という意見をもっている子もいれば、「都会に比べて空気がきれい」「水がおいしい」「こんなに新鮮な野菜や果物が食べられるのはここだけ」など、郷土

愛に満ちた生徒が共存している。一人ひとりの思いは異なるにせよ、本校の生徒にとって自然はとても身近な存在であり、自分たちと自然は切っても切り離せない関係である。

そのような環境にいる生徒たちにとって、目の前に当たり前にある自然と、今や日常生活に欠かせないファストファッションという身近な2つを題材にして環境問題について考えることは意義があることだと考えた。ファッションや流行といったものにさほど興味を示さない生徒も多いが、それでも高校生にとってファストファッションは安くてすぐに手に入る便利で欠かせないものであり、身近な存在だからこそ、ファストファッションの背後にある問題をより自分事として捉えられるはずである。

また、ファストファッションの背後にある問題は環境問題だけでなく、児童労働、貧困、教育の格差、女性の社会的地位など多くの問題が複雑に絡んでいる。本単元では、「ファストファッションの問題＝環境問題」と一面的なものの捉え方をするのではなく、環境・社会・経済が複雑に絡み合い繋がっていることに気づくことで、多角的にものごとを捉えるきっかけになると考えた。さらに、本単元を通じて本校のスローガンである「人と自然との共生」の意味を考えるきっかけにしたいと思った。

〈児童/生徒観〉

クラスには、幼い頃から地元の小さなコミュニティの中で育ち、「田舎は自然しかない」「つまらない」というネガティブなイメージを持っている生徒と、自然や生き物が大好きで自然環境を学びに県内外から本校に通っている生徒が共存している。

生徒たちは自分の興味のあることは探究心をもって調べたり、発表したりすることができるが、興味の範囲が限られており、他の事象との関連性まで意識できないことが課題である。好きなことや興味のあることが、実は他のさまざまな事象と関連していることに気づくことで、視野を広げてほしい。

特に、地元出身の生徒はずっと同じコミュニティで育ってきたため郷土愛がある一方、居心地が良いのかとても保守的で外の世界へ出ていくことに後ろ向きである生徒が多い。自分が育ってきた環境とは別の世界を知ること、新しい知識を得ることの楽しさや、異なる文化に触れる経験をして自分の世界を広げてほしい。

〈指導観〉

教科書では、前半部分でファストファッションの背後にある問題点について学び、後半部分でエシカルファッションについて学ぶ流れになっている。本単元では、一つ一つの商品の裏には必ず生産者がいて、私たちが購入する商品には必ず環境と繋がりがあるということについて生徒たちに深く考えてほしい。

また、単に「ファストファッションは買わない」「高くてもエシカルファッションを買う」という考えを持つのではなく、高校生である生徒自身ができる行動は何か、将来大人になってからできることは何かについて、教科書や教師の考えを押し付けるのではなく、生徒自身で答えを導いてほしい。

05 単元計画（全8時間）

	小単元名	学習のねらい	学習活動
1 ～ 2	ファストファッションがもたらす「ゴミ問題」	ファストファッションが世界でどのくらい大量生産・大量消費されているのかを知ること、ファストファッ	①自分の購買行動について振り返る Q.服を購入するときに、何を一番重視するか？ ②ファストファッションの3つの原則を知る

		ョンが引き起こす「ゴミ問題」を理解する。	1 安く 2 早く 3 最新の流行 ③ 3つの原則が引く起こすゴミ問題を考える Q. 全世界で購入されたファストファッション製品のうち、どのくらい（何％）が1年間で捨てられているか当ててみよう。
	資料・教材など ・教科書 Power On II（東京書籍） ・自作プリント		
3 ～ 4	ファストファッションがもたらす「労働者の低賃金問題」と「環境汚染問題」	縫製工場働く人々や、綿花栽培をする農夫の生活から、ファストファッションが引き起こす「労働者の低賃金問題」と「環境汚染問題」を理解する。	① 縫製工場の賃金が低い理由を考える。 Q. そもそも低賃金とはどのくらいなのか？なぜ、そこまで低賃金になってしまうのか？ ② 農薬や化学肥料の大量散布が引き起こす環境問題について考える。 Q. 農薬を散布する男性の写真がファストファッションとどんな関係があるのか？
	資料・教材など ・教科書 Power On II（東京書籍） ・自作プリント		
5 ～ 6	エシカルファッションとは？	労働環境にも自然環境にも配慮して作られるエシカルファッションについて理解する。	① エシカルファッションが何に配慮された製品なのかを知る。 1 環境にやさしい 2 生活賃金の支払い ② 商品と環境との関係について考え、自分自身の消費行動を振り返る。
	資料・教材など ・教科書 Power On II（東京書籍） ・自作プリント ・シャプラニール クラフトリンク		
7	大量のゴミはどこへ？	ファストファッションが引き起こすゴミ問題は他人事ではなく、自分自身も関わっていることに気づく。	○「尾瀬のゴミ問題」から、ゴミが環境へ与える影響を考える。 ○NHK for School「放置しないで！捨てられた衣服の山」を視聴し、チリ（アタカマ砂漠）、ガーナ（アクラ）で起きている甚大なゴミ問題について学ぶ。 ○持参した（集めた）服のタグを確認し、身の回りにある衣類のほとんどが日本国外で生産されていることに気がつく。
	資料・教材など ・パワーポイント資料 ・ワークシート ・尾瀬のゴミ持ち帰り運動以前の尾瀬ヶ原の写真 ・NHK for School「放置しないで！捨てられた衣服の山」 ・JICA 世界地図		
8 本時	「人と自然との共生」とは？	経済・環境・社会のつながりに気づき、本校のスローガンである「人と自然との共生」の意味を考える。	○環境省 HP「サステナブルファッション」の資料から、服1着の製造工程における環境負荷を予測する。 ○ファストファッションを買うか？買わないか？について、立場の異なる4者の視点でロールプレイを行う。

		○個人振り返り
	資料・教材など ・パワーポイント資料 ・ワークシート ・環境省 HP サステナブルファッション ・NHK for School「放置しないで！捨てられた衣服の山」	

06 本時の展開（8 時間目）

本時のねらい：本校のスローガンである「人と自然との共生」の意味を考える

過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点（支援）
導入（6 分）	○前時の振り返り Do you remember the purpose of this lesson? S : To think about “Coexistence of People and Nature”. ①前時で生徒たちが推測した、ゴミが環境に与える影響を Useful Expressions として復習。（全体）[3 分] ②Word Game（ペア）[3 分] Useful Expressions が一覧になったプリントを配布。 ☆じゃんけん勝→日本語の意味をランダムで読む ☆じゃんけん負→日本語の意味に合う英語を答える 1 分以内により多くの英語を答える。勝ち負けを入れ替えて 2 回行う。	・前時から引き続き同じ目標であることを再確認してから始める。 ・生徒が前時に実際に書いた付箋を見せ関心をひく。 ・Useful Expressions が本時の活動に役立つ重要なフレーズであることを事前に伝える。
展開①（10 分）	○ゴミ問題以外の問題について考える。（全体）[2 分] You’ve learned other problems caused by fast fashion, right? S : Farmers have to use a large amount of pesticides and chemical fertilizers. ○服 1 着の製造工程（原材料調達→紡績→染色→裁断・縫製）を確認した後、各工程における環境負荷を予測する。（ペア）[5 分] What kind of negative effects do these processes have? S₁ : Use pesticides when making cotton. S₂ : Pollute water when dyeing cloth. ○前時に、身の回りにある衣類の大半がバングラデシュを含む外国産だったことを再確認し、輸送でも環境への負荷があることに気がつく。（全体）[3 分]	・農夫が綿花農場で農薬を散布する写真を提示する。 ・導入で学んだ Useful Expressions を活用させる。 ・このタイミングで、服 1 着の製造工程には輸送というもう一つの工程があることを提示する。

→ 環境汚染はどうにかしたいが、工場労働者の生活を守ることが優先だと主張していた。

ただ、国などが労働者に支援金などを支払い生活が守られるならばファストファッションを買わずに済む…と最後まで悩み続けていた生徒。

生徒 B 前 Disagree → 後 Agree

Carbon dioxide and toxic gases shouldn't be emitted for our lives.

→ 確かに労働者の生活を守ること大切だが、人間の都合で環境汚染をするのは間違っていると述べた生徒。

生徒 C 前 Disagree → 後 Disagree

If we don't buy fast fashion, it's not in the worker's profit. Also, I have no money so I can't buy expensive clothes.

→ そもそもエシカルファッションなど高い服を買うお金がないと、高校生らしい率直な意見を述べた生徒。

生徒 D 前 Disagree → 後 Disagree

After role playing, I didn't change my opinion, and I considered about it deeply. Although it is harmful for creatures and environment to produce clothes, we must protect workers' lives in developing countries. They need money to live, so I think we don't have to stop buying fast fashion. Instead, developed countries like Japan can support them by providing money, skills, technology, and so on.

I guess we can reduce environmental issues with connection between countries. Therefore, I think what we people can do is considering about background of clothes. I wonder we should remake our used clothes.

→ 最初は賛成 or 反対と一つの意見に決められないと言っていた生徒。最終的に反対で意見をまとめてくれたが、先進国が金銭面や技術面での支援をすることや、着なくなった服をリメイクするなど様々な提案をしてくれた。

11 海外研修で何を学び、どの部分を児童生徒に伝えようと思ったか

国際協力の第一歩は、相手が抱えている問題の「理解」からはじまるのだと学んだ。また、「理解」することの重要性は国際協力に限らず、授業を行う上での題材理解や生徒理解などすべてに通ずるものだった。

また、僅かではあるが物事をいろいろな角度から考えられる様になったと感じる。今回のバングラデシュの政変一つを例に挙げても、中央集権かつ脆弱な政治の在り方を問題視する先生もいれば、これほど大きなデモを起こしたバングラデシュの若者のパワーに希望を見出す先生、対して日本の民主主義の在り方に疑問を呈する先生…と多種多様な捉え方、感じ方に触れることができた。得られる情報や見る角度によって同じ事象でもガラリと見方が変わるのでと実感する日々であった。

もう一つ、児童労働問題、貧困や教育の格差といった山積みの課題に直面しながらも力強く生きているバングラデシュの人々の生活を知り、「豊かさ」とは何かを考えさせられた。同時にそれらの課題はバングラデシュだけでなく世界につながり、世界の課題は地球全体の課題につながっていることを学んだ。そして、人と人も同じようにつながっていることに気づかされた。

生徒たちには、自分たちのいる地域だけでなく、もっと広く世界を見て、知ってほしいという思いで授業実践に臨んだ。また、一つの「好き」に没頭して研究している生徒には、それが他のあらゆる物や事象と関連している（する可能性がある）ことに気づくきっかけになってほしいと思った。

12 苦労した点

ロールプレイの登場人物とそれぞれの主張を考えることにもっとも苦労した。教科書ではファストファッションの負の側面がメインで書かれているが、実際にはそれにより恩恵を受けている人々が多く存在する。表裏一体となる関係性をもっとも伝わる登場人物は誰で、どのような主張にするべきなのか、同じチームの先生方にたくさんアドバイスをいただいた。また、登場人物の選択と主張内容によっては生徒の思考を誘導しかねない。研修で学んだことを各登場人物の主張に落とし込み、できる限り事実 に即した内容になるよう努めた。

13 改善点

英語の授業としては、ロールプレイでの日本語と英語の比率が最大の改善点である。今後同じような授業を実施する際は以下の2点も英語で挑戦したい。

- ・ロールプレイにおける登場人物の主張
- ・賛成 or 反対とその理由のライティング

また、本時では賛成 or 反対を個人振り返りとしてワークシートに記入させたただけだが、さらにそこからディスカッションやディベートで考えを共有したり深めたりできると良かった。

14 成果が出た点

- ・ロールプレイを取り入れたことで、ファストファッションを生産する開発途上国の人々の立場になって考えることができた。
- ・バングラデシュが日本で暮らす自分たちとどのような関係があるのか、という視点で学ぶことができた。
- ・ロールプレイの前後で自身の考えを変えた生徒、より具体的な理由付けができた生徒がいた。

15 自由記述

本研修の最大の収穫は、他の教員でもなく、AIでもなく、自分にしかできない授業をしてみたいという思いで授業計画を立てられたことである。教科書が同じであっても、生徒の実態の理解度合いや、資料の選び方・提示の仕方・見せるタイミング、活動の仕方によって生徒に与える影響は大きく変わるのだと再確認することができた。

本研修を通して、バングラデシュについて多くの知識を得られたことはもちろんだが、すべての講義やワークで新たな視点や考え方を得ることができた。講義やインタビュー、異文化体験もとても有意義であったが、校種も教科も経験も異なる先生方と意見を交わす時間はとてもワクワクするもので、今回の研修の一番の宝だと感じている。一方、知識経験不足で講義の内容を十分に理解できず自分の考えを上手くアウトプットできない日々は終始モヤモヤしていた。しかしそれも含め、とても充実した時間を過ごすことができた。